

児童 火付けられ重体

東京、2013年12月24日
文京の小学校 父親死亡、心中凶る？

二十三日午前十時半ごろ、東京都文京区千駄木二の区立汐見小学校で、校庭に文京区の

会社員の男(四七)が侵入、少年野球の親睦試合をしていた同校三年の次男(九)を連れ出した。男は灯油のような液体をかぶり、次男に

もかけて火を付けた。二人は病院に運ばれ、男は全身やけどで死亡、次男は意識不明の重体。関連面

警視庁駒込署などに



小学校に侵入した男が児童に火を付けた校舎脇の現場＝23日、東京都文京区で(小平哲章撮影)

よると男は、妻と次男と別居しており、離婚調停中だった。署は、男が無理心中を図ったとみて、詳しい状況を調べている。校庭では当時、少年野球チームの親睦試合があり、次男を含む児童と保護者が参加。次男の母親は来ていなかった。男は次男の手を引いて校庭脇に連れ出し、自分と次男に灯油のような液体をかけたという。現場から男が液体を入れたとみられる金属製の缶(ライター)が

見つかった。

上野署によると、台東区の実家に身を寄せていた男の妻は昨年五月、別居中の夫が子どもを連れ戻しに来た。抵抗すると蹴られた」と相談。署は保護対象とし、通学時間帯や夜間のパトロールを強化、妻とは定期的に連絡を取ったという。捜査関係者によると、妻は当時、別居の理由を「夫の家庭内暴力のため」と説明したという。その後トラブルはなく、昨年十二月には妻や親族の了解を得て保護を打ち切った。上野署は「精いっぱい対応はした」としている。現場の小学校は、JR日暮里駅から西に約一キロの住宅街。近くに

小学校無理心中

母親警察にDV相談

保護打ち切り後 次男に会いに来校

小学生と保護者が野球を楽しんでいる最中に事件は起きた。東京都文京区立汐見小学校の校庭で二十三日、男が同校三年の次男(九)を道連れに焼身自殺を図った事件。次男の友人らは、突然の出来事に驚きを隠せない様子だった。(一面参照)

保護打ち切り後、台東区内の祖父方(父)に身を寄せ、上野署に相談。捜査関係者によると、母親は当時、別居の理由を「夫の家庭内暴力(DV)」と説明し

な感じで母親と仲が悪い。次男を知る六年の男子児童(こ)は二週間前、次男からこう打ち明けられたという。「つつむきながら、暗い表情だった」と振り返る。

上野署は母親と子どもを保護対象としたが、昨年十二月に打ち切った。男子児童らによると、男は数カ月前から汐見小を訪れ、次男が野球をする姿を校庭で眺めていた。男子児童は「熱心に観戦していた。優しく一緒に遊んでくれたりした

た。現場の汐見小は二十三日、校庭が開放され、次男の所属する少年野球チームによる保護者と児童との親睦試合があった。当時、グラウンドには児童二十人、保護者十五人ほどがいたが、他の児童らにけがはなかった。文京区教育委員会の担当者は「父親について

た。現場の汐見小は二十三日、校庭が開放され、次男の所属する少年野球チームによる保護者と児童との親睦試合があった。当時、グラウンドには児童二十人、保護者十五人ほどがいたが、他の児童らにけがはなかった。文京区教育委員会の担当者は「父親について

汐見小学校に侵入し次男を連れ出した男が火を付けた現場付近を調べる捜査員 23日午後、東京都文京区での相談がなかったかなどを調べる」と話した。

今後、児童らの登校時は教職員らが付き添うほか、スクールカウンセラーが児童の心のケアにあたる。